

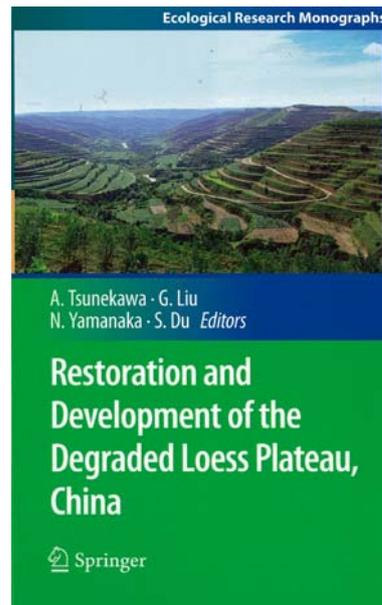
# かんちけん倶楽部

## —NEWS—

### ■ ” Restoration and Development of the Degraded Loess Plateau, China ” を出版しました

世界的な出版社である Springer 社から「Restoration and Development of the Degraded Loess Plateau, China (中国・黄土高原の土地劣化とその修復および開発)」を出版しました。

この書籍は、乾燥地研究センターが中国科学院・水土保持研究所と共同で実施してきた拠点大学交流事業「中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用」(2001～2010年度)およびグローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」(2007～2011年度)の成果をとりまとめた内容で、英文で執筆したものです。



編者は乾燥地研究センターの恒川教授と山中教授、そして水土保持研究所の劉国彬所長および杜盛教授の4名。執筆者は両機関を中心とした42名です。本書は、黄土高原の自然や歴史からはじまり、今、起こりつつある砂漠化の問題とそれを克服するための技術、そしてこれからの黄土高原の将来と発展を考えるという構成になっており、まさに両機関による共同研究の成果の集大成ともいえる内容となっています。

表紙の写真にあるように、黄土高原といえば「耕して天に至る」という段々畑が広がり、そこでの水食は世界的にも知られた大問題です。一方、近年では、原油、天然ガスが採掘され、西安を拠点とする「西部大開発」もあいまって著しい発展を遂げています。環境面では、「退耕還林政策」(侵食の激しい斜面地での耕作をやめて森林にもどす事業)が実施され、急速に緑化が進められています。センター所属の編集者らは、このような急速な変化を肌身で実感しつつ、中国人研究者とともに黄土高原の問題と将来を考え、議論し、そして本書執筆に至りました。



左から杜盛教授、劉国彬所長、恒川教授、山中教授

本書は、オンライン書店のAmazonでも注文できます。また電子版もあわせて出版されていますので、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.springer.com/environment/environmental+management/book/978-4-431-54480-7>

## ■ 写真集「モンゴル 黄砂を辿る」が出版されました

黄砂プロジェクト編集のモンゴル写真集「モンゴル 黄砂を辿る」を、今井出版から3月1日に発行しました。黄砂プロジェクトの研究対象地であるモンゴルの素晴らしい大自然や人々の暮らしなど、研究を通じて出会った風景を収めています。この写真集を通じてモンゴルについて、そして黄砂問題について知っていただければ幸いです。

県内の主な書店、アマゾン等でご購入いただけます(定価:1,500円+税)。  
今井出版 HP: [http://imai-printing.blogspot.jp/2014/03/blog-post\\_10.html](http://imai-printing.blogspot.jp/2014/03/blog-post_10.html)



## ■ 昨年植えたアンズの花が咲きました

昨年3月13日に環境整備の一環として植栽したアンズが花をつけました※。厳しい海からの風のためか、一部の木で枯死や、枝の枯れが見られますが、3月下旬にニコニコットとサニーコットという品種で花が咲きました。ほんのわずかにピンク色が入った白い花です。まだお花見というわけにはいきませんが、可憐な花が楽しめました。現在はニコニコット3本とサニーコット1本で果実が大きくなっています。もう少しで何個か収穫できそうです。



アンズ(ニコニコット)の花 (2014.3.26)



アンズ(ニコニコット)の実 (2014.6.8)

※植栽の様子は、かんちけん倶楽部 Vol. 13(1) (2013年6月発行) をご参照下さい。

## 乾地研のひと (新任者紹介)

### 〈外国人客員准教授 アイエフ、ヌグセ ハラガウエイン〉

私は AYEFU, Nigussie Haregeweyn、エチオピア出身です。専門は、自然地理学です。現在は、乾燥地研究センターの生物生産部門の外国人客員研究員として働いております。研究課題は、“青ナイル川上流域における土壌侵食制御および炭素貯留のための統合流域管理”です。この研究の主な目的は、土壌侵食とその気候変動との関係についての統合流域管理の効果をモデル化することです。この研究では、流域管理施策のための侵食傾向にある地域の特定、侵食リスク防止の管理計画の策定、炭素貯留における土砂堆積重要性の定量化および青ナイル川下流域の国々への土砂流出リスクのモデル化が期待されています。また、自身の研究とは別に、乾地研スタッフと共に、バハルダール大学との共同研究プロジェクト(科研費:代表者・恒川篤史)にも積極的に取り組んでいます。このプロジェクトは、青ナイル川上流域の土地資源保全と生産力、生態系機能に及ぼす政府主導の土地管理施策の影響を数値化することが期待されています。



## ■ イノシシが捕獲されました

乾燥地研究センターでは、6.2haの実験圃場でイモや小麦などを栽培していますが、ここ数年、敷地内にイノシシやシカなど野生動物が現れ、実験作物が荒らされる被害が頻発しています。これまで、電気柵などを設置して対処してきましたが対策が追いつかないため、平行して鳥取市に捕獲依頼してきました。市から委託の猟師さんによって、ハコワナ（オリ）、ククリワナといった仕掛けで、これまでイノシシ4頭とシカ1頭が捕獲されました。センターが位置する浜坂地区全体では、ここ3～4年でイノシシ10頭ほどが捕獲されたそうです。



センター敷地内で、ククリワナによって捕獲されたイノシシ

## ■ 乾地研周辺の動物生態

イノシシやシカが捕獲されたことからわかるように、乾燥地研究センターの敷地は野生動物の生息地でもあります。中型の哺乳類ではキツネ、タヌキ、シカ、ウサギ、テン、アナグマなどが観察されています。春にはキジの声も良く聞こえていました。

かつては砂丘だった場所も、クロマツやニセアカシア、アキグミなどが生い茂るようになり、人が歩くのに苦労する藪も広がっています。そのような場所には、けもの道や足跡・食痕・糞・掘り跡なども見られます。日中、野生哺乳類を見つけることは難しいのですが、このような痕跡から夜間はさまざまな動物が活動していることを感じることができます。

砂丘にはどんな動物がいて、いつ、どこを、どのように行動しているのか、そして、動物の種類や時間・季節によって行動の仕方が違うのか、さらにはなぜそのような違いが生じるのかを、現在、センターと共同で京都大学情報学研究科の小山里奈准教授のグループが精力的に研究しています。観察が難しい動物の確認のため、自動撮影カメラを設置し、暑さ、寒さ、雨、雪にも負けず定期的な痕跡調査を継続しています。これまでの自動撮影では、上に挙げた動物のほかにネコとイヌも写っていましたが、撮影回数が最も多かったのはキツネで、次がイノシシでした。これまで謎に包まれていた、鳥取砂丘の動物の生態が明らかになっていくことが楽しみです。



センター内で観察されたキツネ(撮影:伊藤健彦助教)



自動撮影カメラで撮影されたニホンジカ  
(提供:京都大学 小山里奈准教授)

## － 活動報告 －

### ■ サイエンスカフェ@ALRC (4～6月)

研究する上で感じたこと、普段の生活や海外調査の様子について語り合い情報を共有するための場として、サイエンスカフェを開催しています。4～6月は、以下のようなテーマで行いました。

- 第32回 樹幹の病傷害応答あれこれ (山本福寿, 農学部, 2014.4.23)
  - 第33回 General overview of the Sudanese traditional foods and culture (Isam Ali, Mohamed Ahmed Ali, 乾地研, 2014.5.14)
  - 第34回 鳥取砂丘の動物行動学 (小山里奈, 京都大学, 2014.5.28)
  - 第35回 Agriculture and Mines in Afghanistan (Sayeed Qadir, カブール大学農学部, 2014.6.25)
- 毎月第2、第4水曜日、17時半より開催しますので、ぜひご参加下さい。詳細ならびに今後の予定はホームページをご覧ください。

[http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/seminar/s\\_cafe/s\\_cafe\\_index.html](http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/seminar/s_cafe/s_cafe_index.html)

## － お知らせ －

### ☆ 一般公開、砂漠博士のご案内

乾燥地研究センターでは、センターの研究活動を広く一般のみなさまにご理解いただくため、毎年一般公開を実施しています。本年度は8月2日(土)に開催することが決定しました。

当日は、小学4～6年生を対象とした体験型実験イベント「きみもなろう!砂漠博士」、乾燥地の動物に関する講演会、実験室見学ツアー、砂丘ナイトツアー、ミニ実験コーナーなどを行う予定ですので、多くのみなさまのご来場をお待ちしております。詳しくはセンターのホームページをご覧ください。

<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/study/dome-2014.html>



### ☆ 鳥取県立図書館でパネル展を開催

7月25日(金)～8月30日(土)にかけて鳥取県立図書館におきまして、センターが中国で行ってきた砂漠緑化の取り組みなどを紹介したパネル展を開催します。お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

### ☆ 乾燥地学術標本展示室の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日の12～16時、「ミニ砂漠博物館」を公開しています。入場無料、予約不要ですので、この機会に是非ご覧ください。

## 【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局  
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地  
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155